

事業報告

平成30年度 教育事業 NEAL リーダー & ボランティア養成研修

平成30年9月15日(土)～17日(月・祝)

【対象】 自然体験活動に興味のある18歳以上の方
【場所】 国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

自然体験活動指導者認定制度における養成カリキュラム(概論I)に基づいた講習会を実施し、自然体験活動指導者(NEALリーダー)を養成することで、自然体験活動の推進に寄与する。【NEALリーダー養成】

青少年の体験活動を支援するボランティアに求められる知識・技能を取得するとともに、ボランティア活動の意欲を高める。【ボランティア養成】

～主催～

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

～活動日程～

月日	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
9月15日(土)	法人ボラ				受付	開講式 青少年教育施設の現状と運営(職員)	青少年教育施設におけるボランティア活動	昼食	ボランティア活動の意義 1.5h	休憩	ボランティア活動の技術 野外炊飯 4h			青少年教育施設におけるボランティア活動(先輩ボラ)	入浴		消灯・就寝
	ニールリーダー					1h	0.5h			受付	自然体験活動の技術 野外炊飯			休憩(入浴可)			
9月16日(日)	法人ボラ	起床・洗面	朝のうた	朝食	安全管理 救急救命講習 3h			昼食	青少年教育の理解 1.5h	青少年教育施設におけるボランティア活動							
	ニールリーダー				自然体験活動の安全管理 救急救命講習				青少年教育における体験活動	対象者理解 1.5h	休憩	ガイダンス(講師) 1.5h	夕食	入浴			消灯・就寝
9月17日(月・祝)	ニールリーダー	起床・洗面	朝のうた	清掃・荷物整理	自然体験活動の特質 3h			昼食	自然体験活動の技術 2h	自然体験活動の指導 1.5h	認定試験 0.5h	閉講式	解散				

～参加者～

22名(男性:12名 女性:10名)(大学生:14名 社会人:8名)
(長野県:16名、新潟県:2名、東京都:2名、愛知県:1名、富山県1名)

～活動トピックス～

V: ボランティア養成 N: NEALリーダー養成

講義1 V【青少年教育施設の現状と運営】

講師: 国立信州高遠青少年自然の家 ボランティアコーディネーター
青少年教育施設の教育機能や役割や運営について理解を深めた。

講義2 V【青少年教育施設におけるボランティア活動】

講師: 国立信州高遠青少年自然の家 ボランティアコーディネーター
青少年教育施設でのボランティア活動について理解を深めた。





講義3 V【ボランティア活動の意義】

講師：昭和女子大学 グローバルビジネス学部 特任教授
コミュニティサービスラーニングセンター長
興梶 寛 氏

ボランティアの成り立ちから世界各国での多様なボランティアについて現地での活動の様子を学び、ボランティア活動についての理解を深めた。

実習1 V【ボランティア活動の技術】N【自然体験活動の技術】（野外炊飯）

講師：国立信州高遠青少年自然の家 企画指導専門職

野外炊飯を実際に行った。ナタの使い方やKYT（危険予知トレーニング）を行ったことにより、実際に指導する際の留意点を学ぶことができた。



講義4 V【青少年教育施設におけるボランティア活動】

講師：国立信州高遠青少年自然の家 法人ボランティア

自然の家で活動する先輩ボランティアから、これまでの活動の様子や感じたこと、ボランティアの有用性など、自然の家での活動について話を聞いた。



実習2 V【安全管理】N【自然体験活動の安全管理】（救命救急講習）

講師：上伊那広域消防本部 職員

国立信州高遠青少年自然の家 職員（応急手当普及員）

心肺蘇生法とAEDの使い方について学ぶとともに、三角巾を用いた止血法や身近なものをを用いた固定具の作り方などの応急処置の方法について学んだ。



講義5 V【青少年教育の理解】N【青少年教育における体験活動】

講師：信州大学教育学部講師 瀧 直也 氏

青少年教育の目的、体験活動の定義、青少年の現状と現代的課題、青少年の自然体験活動の取組について、幼少期の原体験の重要性、具体的な調査報告など様々な視点からわかりやすく学ぶことができた。



講義6 N【対象者理解】

講師：信州大学教育学部講師 瀧 直也 氏

対象者理解の目的と方法及び対象者への配慮事項について、発達段階に応じた特徴や課題、事前資料の活用、リーダーの心構えなどをともに学ぶことができた。

講義7 V【青少年教育施設におけるボランティア活動】

講師：国立信州高遠青少年自然の家 ボランティアコーディネーター

法人ボランティア登録制度について理解し、登録方法や活動を行う際の留意事項、手続き等について学んだ。

講義8 N【ガイダンス】

講師：主任講師

自然体験活動指導者の認定制度について理解し、資格の種類と役割及び養成カリキュラムについて学んだ。

講義・実技9 N【自然体験活動の特質】

講師：信州大学 理事・副学長

平野 吉直 氏

自然体験活動の魅力についてグループワークを行い、子どもにとっての自然体験活動の教育的意義について考えた。その後、「森のつながりさがし」という実技を通して自然体験活動の成果について考えた。



講義・実技10 N【自然体験活動の技術】

講師：公益財団法人キープ協会環境教育事業部

増田 直広 氏

施設のフィールドを使用し、実際に「葉っぱじゃんけん」や「自然素材メニュー」というアクティビティを行った。指導方法や技術を体験を通して学ぶことができた。また、アクティビティに入る前の導入として「間違い探し」や「草笛」を行い、プログラムデザインに必要な「導入」「展開」「まとめ」について実際の体験をもとに学ぶことができた。



講義11 N【自然体験活動の指導】

講師：公益財団法人キープ協会環境教育事業部

増田 直広 氏

自然体験活動指導者としての心構えや倫理観について具体例をもとに学んだ。



～参加者の声～

- ・ボランティアの成り立ちや世界でのボランティアの役割について理解することができた。
- ・青少年教育、野外教育の概念を学ぶことができた。また、全体について学ぶことができたので、その後の講義の理解につながった。
- ・対象者理解や参加者との関わり方について、活動以前の留意点や活動後の到達点を学ぶことができ、とても有意義な講義だった。
- ・自分たちで思考したり、行動したりできたので、教育的意義や特質について深く考えることができた。
- ・普段受けることのできない指導者としての心構えや指導の仕方を学ぶことができた。
- ・対象者理解について、関わり方など自分が参加したキャンプを振り返りながら聞くことができた。今後のキャンプで指導者としての子どもたちとの関わり方に活かしていきたい。

～成果と課題～

- それぞれの資格の該当参加者全員が法人ボランティア登録とNEALリーダー登録を行った。今後、上級資格へのステップアップに興味を持つ参加者も多くいた。それぞれの資格について、今後の自分自身の活動への有用性や今後の活用法をよく理解した成果といえる。
- 講師の先生方の実際の経験に基づくお話やグループワーク、実技等を交えての講習が参加者にとって好評であった。今後も各分野に造詣の深い有識者に講師をお願いしたい。
- 現状のカリキュラム組みでは、最終日の終了時刻が遅くなってしまいうため、カリキュラムの組み方を検討し早く終了できるように検討したい。